

香川大名譽教授2人刊行

証言集に 昭和の激動

香川医科大学（現香川大医学部）の西岡幹夫名誉教授（85）と、香川大学の山崎敏範名誉教授（77）が、第2次世界大戦前、戦中、そして戦後の激動の昭和時代を生きた香川にゆかりのある人たちの体験談をつづった証言集を発売した。当時を知る世代が高齢化する中、大学教授や企業役員、元教師、主婦といった幅広い人物の証言を記録することで、表立って語られることの少ない歴史の真実をまとめた貴重な伝承集に仕上がっている。

高度成長期の生活つづる

発売したのは「昭和わたしの証言」シリーズの第5巻。執筆者の体験を基に現代社会が見失った過去の事例に気付いてもらおうと、西岡氏と四国新聞社を退職後、高松短期大学名誉教授を務めた故津森明氏が2009年に第1巻を出版した。13年発売の第4巻まで、延べ77人が体験談を寄稿している。

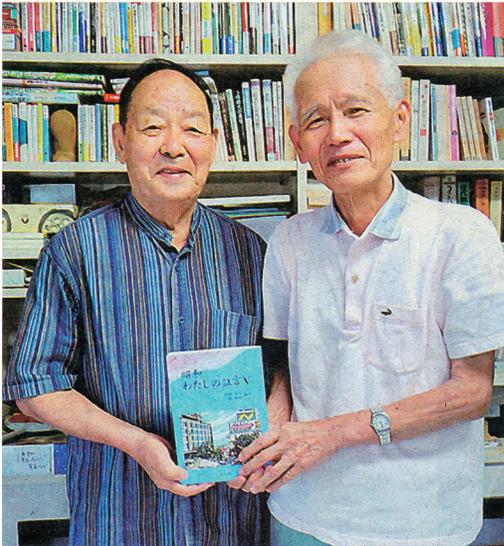
17年12月に津森氏が逝去したことで編集が一時中断したが、西岡氏の発行継続に寄せる思いに賛同した山崎氏が編集に協力。20年春から作業を再開し、それぞれの人脈を駆

香川ゆかり 26人寄稿

使して寄稿者を募り、今年8月下旬、完成にこぎ着けた。第5巻は、94歳から56歳まで女性6人を含むシリーズ最多の26人が寄稿。主に高度経済成長期に青春時代を過ごした証言者らの体験談を収録している。社会情勢が目まぐるしく変化化する中、貧しくも夢に向かって勉学にいそしんだ学生生活や女性故に受けた就職差別に苦しんだ胸の内など、執筆者それぞれの視点に立ったエピソードが随所に盛り込まれ、当時の生活の一端を垣間見ることができるとなっている。

発行に当たっては、執筆者から寄せられた原稿量が想定よりも多く、従来の四六判からA5判にサイズを大きくしてまとめるなど編集に苦労したという。西岡、山崎両氏は「今回も貴重な証言がたくさん集まった。将来を担う若い世代をはじめ、一人でも多くの人に執筆者のメッセージが伝わることを願っている。今後版を重ねていきたい」と話している。

1650円。問い合わせは高松市多賀町の美巧社。電話〈087（833）5811〉。



写真①は、「昭和わたしの証言」第5巻を手にする西岡氏（左）と山崎氏。写真②は「昭和わたしの証言」第5巻の表紙